

2月1日午前 2科4科入試 **社会****【出題の狙い】**

かえつ有明の社会科で大切にしているのは、しっかりとした基礎知識の習得と、その知識をさまざまな場面に即して活用できる力です。むやみに知識だけをつめこむことではなく、なぜそうなるのか、何に影響するのか、様々な関係性の中でのものを理解することに努めましょう。

具体的には、地理では地図やデータを読み解けること、歴史では因果関係を広い視点で理解していること、公民では社会の仕組みを自分ごととして意識していることが重要です。また、グローバル社会の一員として、時事問題やSDGsなどの世界的課題にも意識を向けておいてください。

【結果講評】

今回の地理分野では地域理解を、歴史分野では大きな流れの理解をテーマに出題しました。地理・歴史ともによく準備されていましたが、地理分野中心の大問1の正答率は約51.4%で、歴史分野中心の大問2の正答率は約56.3%でした。地理では、学校の周辺地域を題材にして地理の知識活用を求められたところにやや苦しんだようです。また、全体的に公民分野の問題で正答率が下がる傾向があります。地理や歴史にまじって出題されますので、何を聞かれているか落ち着いて整理してみてください。

【成績層により差がついた問題】

全体の正答率に大きな差があった問題をピックアップすると、地理分野ではやはり大問1問9(1)です。ふたつのグラフを見ながら選択肢を吟味する必要があり、平均正答率は27.1%でした。公民分野では大問2問8(1)です。公民の知識に歴史分野の知識を組み合わせると解きやすくなります。歴史分野では大問2問8(2)の地券の問題で差がついたようです。聞かれていることは難しくないですが、一問一答形式ではなく資料の中から読み取る形です。同じことがらでも色々な角度から考えられるようにしましょう。

【次年度以降の受験生に向けて：指導される先生へ】

まずは基礎知識のインプットとアウトプットを徹底することが重要です。その上で、毎年差がつくのは地理分野の資料問題、歴史分野の語句記述や因果関係問題、公民分野の時事問題となっています。加えて、少し聞き方を変えてみた問題での差も目立ちます。

資料問題ならば、初見の資料でも論理的に読み解くような力を演習でつけておくと良いでしょう。歴史上の出来事では、なぜその出来事が起きたのか、その出来事はどのような経過をたどったのか、その結果どのようなようになったのかを、一連の関連性の中で理解する力を伸ばしてください。また、【出題の狙い】でも挙げたように、グローバル社会の一員であることを意識する出題は重視していますので、国際社会が抱えている課題についての基礎知識はしっかり学んでほしいと思います。特に、入試が行われる前年の10月までの時事問題は、新しいできごとだけでなく再注目されたものについても、これまで学んだこととのつながりを意識しながら注意してくれると心強いです。

2月1日午後 特待入試 **社会****【出題の狙い】**

かえつ有明の社会科で大切にしているのは、しっかりとした基礎知識の習得と、その知識をさまざまな場面に即して活用できる力です。むやみに知識だけをつめこむことではなく、なぜそうなるのか、何に影響するのか、様々な関係性の中でのものを理解することに努めましょう。

具体的には、地理では地図やデータを読み解けること、歴史では因果関係を広い視点で理解していること、公民では社会の仕組みを自分ごととして意識していることが重要です。また、グローバル社会の一員として、時事問題やSDGsなどの世界的課題にも意識を向けておいてください。

【結果講評】

今回は地理分野も歴史分野も「地震」をテーマに出題しました。地理・歴史ともによく準備されていましたが、地理分野中心の大問1の正答率は約56.6%で、歴史分野中心の大問2の正答率は約50.5%でした。地理は、図の問題について落ち着いて解けたようですが、グラフを読み取る問題は複雑ではないものの正答率が下がりました。凡例や軸など基本的な情報を読み取れるようにしたいです。歴史は、資料問題なども良くできていましたが、全体的にあと一步で間違えているところが見られました。

【成績層により差がついた問題】

全体の正答率に大きな差があった問題をピックアップすると、地理分野では大問1問5の隅田川を答える問題で、平均正答率は約29.9%でした。白地図で大きな河川を覚えた先に、わたしたちの生活の視点からも身近な河川を見られるようになることを期待しています。歴史分野では大問2問10(1)の年代整序問題は少し細かい知識が求められ、公民分野では大問2問10(2)の資料問題がふだんと違う角度から問われ、それぞれ正答率が伸びませんでした。

【次年度以降の受験生に向けて：指導される先生へ】

まずは基礎知識のインプットとアウトプットを徹底することが重要です。その上で、毎年差がつくのは地理分野の資料問題、歴史分野の語句記述や因果関係問題、公民分野の時事問題となっています。加えて、少し聞き方を変えてみた問題での差も目立ちます。

資料問題ならば、初見の資料でも論理的に読み解くような力を演習でつけておくといいでしょう。歴史上の出来事では、なぜその出来事が起きたのか、その出来事はどのような経過をたどったのか、その結果どのようになったのかを、一連の関連性の中で理解する力を伸ばしてください。また、【出題の狙い】でも挙げたように、グローバル社会の一員であることを意識する出題は重視していますので、国際社会が抱えている課題についての基礎知識はしっかり学んでほしいと思います。特に、入試が行われる前年の10月までの時事問題は、新しいできごとだけでなく再注目されたものについても、これまで学んだこととのつながりを意識しながら注意してくれると心強いです。